

子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of cesarean birth with prevalence of functional constipation in toddlers at 3 years of age: results from the Japan Environment and Children's Study (JECS)

和文タイトル:

分娩方法と生まれた子どもの3歳時点の機能性便秘との関連:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 富山ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: BMC Pediatrics

年: 2021 DOI: 10.1186/s12887-021-02885-9

筆頭著者名: 中村 万理

所属 UC 名: 富山ユニットセンター

目的:

帝王切開による分娩は、乳児の腸内微生物叢の多様性に影響を与え、乳児の機能性便秘を含む消化器疾患と関連している可能性がある。本研究では、分娩方法と生まれた子どもの3歳時点の機能性便秘との関連を検討した。

方法:

71,878組の親子を対象とし、生まれた子どもの3歳時点の機能的便秘の有無と分娩方法との関連を検討した。便秘の評価は、ローマⅢ診断基準に従って判定した。ロジスティック回帰分析でオッズ比および95%信頼区間を算出した。

結果:

本研究では、12.3%の子どもに3歳時点で機能性便秘が認められ、経膣分娩で生まれた子どもでは12.1%、帝王切開で生まれた子どもでは13.1%が機能性便秘であった。ロジスティック回帰分析の結果、帝王切開で生まれた子どもは経膣分娩で生まれた子どもに比べて、機能性便秘である割合が高かった(調整オッズ比:1.064、95%信頼区間:1.004~1.128)。

考察(研究の限界を含める):

本研究より、分娩方法は生まれた子どもの3歳時点の機能性便秘に影響する可能性が示唆された。本研究の限界点としては、予定帝王切開と緊急帝王切開を区別していないこと、出産後のデータを追跡できなかったなどの理由で約22.7%の参加者が解析から除かれたこと、複数の共変量を用いたものの調整しきれなかった他の要因が存在する可能性があること、などが挙げられる。

結論:

帝王切開で生まれた子どもは、経膣分娩で生まれた子に比べて、3歳時点で機能性便秘を有する可能性が高いことが明らかになった。